総合教育センターだより

街路樹

発行第　１７０　号
令和５年　２月２７日（月）
いわき市総合教育センター
いわき市平字堂根町１－４
０２４６（２２）３７０５

2月

次年度の研究を深めるために

コロナ禍の影響はまだ続いており、学校での対応にもご苦労をされていることと思います。令和5年度の研修は引き続き対面での研修を基本とし、感染防止策を講じながら研修を進めて参ります。

昨年4月に「校長及び教員としての資質向上に関する指標【第2版】」が県教育委員会から出されたほか、令和の日本型教育における「新たな教師の学びの姿」として、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励が令和5年度から始まります。これらのねらいは、今までの研修観の転換を目指すことにあり、私たち教師一人一人が自身の専門性を高めていくために、主体的に研修に取り組むことが求められています。自分の強みや弱みを理解し、今後伸ばすべき力や学校で果たすべき役割などを踏まえ、必要な学びを選択し、主体的に研修することがポイントになります。まさに、私たち教師自身が児童生徒にとって、「主体的・対話的で深い学び」のロールモデルになることが「新たな教師の学びの姿」だと言えます。

以上のことを念頭に置きながら、次の点に重点を置いて令和5年度の研修を実施して参ります。

1　基本研修における教科指導研修の充実

初任者研修をはじめとする基本研修の中で、教科指導に係る研修（特に学習内容の理解と自己肯定感の伸長）を充実させていきます。

2　各種の指導力の向上を図る専門研修の充実

教科研修（授業力向上講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）をはじめ、特別支援教育や生徒指導研修、情報教育研修に係る講座を充実させていきます。

3　大学等の外部講師による研修

専門的な知見を深めるため、県内外の大学等の講師（不登校対策のエキスパートの花輪敏男先生、Q-Uテスト開発者の河村茂雄先生等）を招聘し、研修の質の向上に努めて参ります。

次年度に向けて

教育支援室では、今年度から特別支援教育アドバイザーを配置し、さらに教育相談、不登校対策、家庭支援、特別支援教育関係の4つの業務の充実を図ってきました。未だ続くコロナ禍と社会経済情勢の変化、医療的ケアや居住地校交流等のニーズの高まりなどにより、相談や支援の内容が多様化、深刻化し、各学校の相談・支援機能の充実がさらに求められているところです。

このことから、令和5年度の教育支援室の重点を次の3点として取り組んで行きたいと考えています。

1　学校の相談・支援体制構築に向けた支援の充実

児童生徒や保護者の最も近い立場にある学校が継続的で丁寧な相談を行い、校内だけでなく、関係機関と連携した支援体制の構築を行うことが求められています。管理職が特別支援教育アドバイザー、教育相談部、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等とともに、学校の相談・支援体制を構築させていくための支援を充実させていきます。

2　地域資源のつながりを生かした支援の充実

関係機関との定期的な打合せの実施等により、地域資源を生かすことができるように情報を共有し、学校の支援に生かしていきます。今年度、特に福祉機関との連携が重要である事例が数多く見られたことから、さらに福祉機関との連携を図って、学校等の支援を充実させていきます。

3　特別支援学級等担当教員への支援の充実

特別支援学級等新任担当教員サポート訪問等で特別支援学級の担当教員の支援の充実を図っていますが、特別支援学級在籍児童生徒数と特別支援学級数は令和5年度も増加が見込まれています。特別支援学級等を初めて担当する教員や経験が少ない教員への継続的な支援は喫緊の課題です。管理職、特別支援学校、関係機関と力を合わせて、特別支援学級等担当教員への支援を充実させていきます。

ぜひ、来年度も支援の必要な児童生徒一人一人の教育的ニーズに応えるため、教育支援室をご活用ください。

教員は学校現場で育つ～教師の学びの場の工夫～

中教審の「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿については、教師は「学び続ける存在」であることが強く期待されています。教員の資質・能力の育成の場面としては、⑴　センター等で行う研修で学ぶ　Off-J-T【Off-the-Job-Training】、⑵　職場で仕事をする中で育つ・育てる　O-J-T【On-the-Job-Training】、⑶　自主勉強会等で学ぶ　SD【Self Development 】などが考えられます。その中で、教員が学校現場で育つためには、特にOJTをどのように主体的に進めていくかが重要です。

OJTを効果的に進めるためのポイントには次のような例が考えられます。

1　学校での各種活動の「見える化・見せる化」・・・写真などを活用し、同僚のよい見本をモデリングする機会をつくる。
2　評価の場づくり・・・認められたり褒められたりする場面をつくり、評価されている自分が見えるようにする。
3　自校の強みを生かした取組み・・・優秀教員などの授業参観やICTの得意な教員を講師にした研修を行う。
4　外部の風の活用・・・外部の風を取り入れる要請訪問や小中交流、先進校視察などを活用する。
5　教員間のコミュニケーション力の育成・・・ちょっとした会話がしやすいような場を設定するなど環境づくりを提案する。
6　経験のある教員による経験の浅い教員への指導・・・初任者研修のメンター研修で初任者と同時に指導に当たる教員を育てる。　など

学校現場では、ほかにも様々な教員の学びの場を設定して実践していることと思います。私たち教員は、学校現場における学習指導や生徒指導、地域や保護者との連携など様々な場面で、同僚との関わり合いの中で認められたり、達成感を得たり、自分を振り返りながらともに学んでいくことが大切です。 同僚と支え合いながらOJTを効果的に活用し、今の自分に必要な力、そして将来の自分に必要となる力を高めていきましょう。